

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率100%

保護者様： 20名回答、回答率83.3%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・個別課題スペースと集団課題スペースを分け、限られた空間を工夫して構造化している。
- ・個室はパーテーションで区切り、視覚的な刺激を減らしている。
- ・色別テープや写真、絵等視覚化することでわかりやすく掲示している。

○業務改善

- ・定期的な業務の振り返りと上長面談などを通して、業務量を調整できるよう努めている。
- ・児童対応などについて心理士や作業療法士から助言を求め、支援の質の向上に繋げている。

○適切な支援の提供

- ・業務前ミーティングで児童一人ひとりの課題や目的を明確にし、全職員が共通認識をもって支援を行っている。
- ・個別課題と集団課題を行うことで、それぞれの視点で課題を分析し、さまざまな経験を積むことができるよう支援している。

○関係機関や保護者との連携

- ・幼稚園や保育園と連携をとり、一貫した支援ができるよう共有している。
- ・地域の自立支援協議会に積極的に参加している。

○保護者への説明責任等

- ・契約時は重要事項を説明し、個人情報の使用同意をいただいた上で契約している。
- ・支援後に保護者へ児童の様子をお伝えしている。
- ・個別課題に関して、適宜成果や経過を共有している。

○非常時等の対応

- ・月一回の避難訓練では、地震・火災・水害等、さまざまなケースを想定して実施している。
- ・避難経路を保護者待機室に掲示している。
- ・定期的に虐待防止研修を実施している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・「子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか」「生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか」については95%以上の方から「はい」と回答をいただき、「余計な物が無くて気が散らない」「すっきりしていて良い」などのご意見をいただきました。

○適切な支援の提供

・「活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか」については100%の方から「はい」と回答をいただき、「色々なプログラムで子どもが飽きない工夫がある」「バリエーションを考えて準備してくださっていて、利用をより楽しみにしています」とのご意見をいただきました。

・「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流やその他地域で子どもと活動する機会があるか」については「特に他の交流はないが、特に求めている」とのご意見をいただきました。

○保護者への説明等

・「支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか」「児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか」については100%の方から「はい」と回答をいただきました。

・「子どものことを十分に理解し、特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思うか」については90%以上の方から「はい」と回答をいただき、「子供ができることが増えるよう、色々なやり方で支援して下さっていると感心します」「きめ細やかなフィードバックをしてくださり違いを実感して感謝しています」とのご意見をいただきました。

・「定期的に通信やホームページ等で子どもや保護者に対して発信されているか」については「どちらともいえない」「わからない」との回答もあったため、活動概要の周知方法を検討していく必要がある。

○非常時等の対応

・「非常災害発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われているか」については90%以上の方から「はい」と回答をいただき、「親の待機部屋に一時避難場所への経路地図が掲示されていて良い」「訓練したと子どもから聞いた」とのご意見をいただきました。

○ 満 足 度

「支援に満足しているか」「子どもは通所を楽しみにしているか」については95%以上の方から「はい」と回答をいただき、「いつも親身になり子供や親の支援をしていただき、大変感謝しております」「回数ももっと増やしてもいいと言うようになり、嬉しい驚きです」などのご意見をいただきました。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・ペアレント・トレーニングの実施についての検討。
- ・定期的なブログの更新と保護者への周知。
- ・事業所内相談支援の実施や周知。

○改善できた点・まだ残る課題

・映像で見える環境で避難訓練を行うことにより、非常時等の対応について保護者に周知することができた一方で、グループフィードバックになったことで、日常の様子や相談事を共有しづらくなったとの回答をいただきました。定期的な面談以外にもお困りごとの共有や解決に向けて話を聞いたり助言したりする機会を設け、保護者支援を行う必要がある。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童にわかりやすい構造化された環境を作ることができている。
- ・業務前ミーティングにて児童の様子を細かく共有し、心理士や作業療法士と相談しながら支援を行うことができている。
- ・保護者の話に寄り添い得た児童の様子から、保護者へ支援方法を提案することができている。
- ・保護者や幼稚園、保育園、他事業所などと連携を図り、一貫した支援に向けて取り組むことができている。

○改善点

- ・事業所内相談支援として定期的な面談以外にも話を聞く機会を設けることができる旨を保護者へ周知する必要がある。
- ・ブログを更新し、活動概要を周知する機会を増やす必要がある。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・ご家庭や各関係機関との連携を強化し、包括的支援の実現を目指す。
- ・利用者に対して、法人や事業所としての各種取り組みについての積極的な情報共有を図り、透明性の高い安心できる事業所運営を行っていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・事業所内相談支援についての周知を行い、保護者にとって気軽に相談しやすい環境設定を行う。
- ・保護者待機室に非常災害時に備えたマニュアルを用いながら、災害時等の対応について周知していく。
- ・定期的にブログを更新することで活動概要を周知し、利用者のみならず新規希望者に向けた発信を行う。